

中学校『保健体育科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和6年〇月〇日 第〇校時(50 分)
 (2) 場 所 3年 1組 教室
 (3) 学年・学級 第3学年 1組(男子 15 名・女子 15 名・計 30 名)

使用教科書: 中学校保健体育(学研)P174・175

- (4) 単 元 名 健康と環境「空気の衛生的管理」

- (5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

小学校では、健康を保持増進するためには、明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることを学習している。

【単元のねらい】

健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康と環境について理解を深めること。

(ア) 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

(イ) 飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。

(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。

イ 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

【生徒の状況】

体育分野の運動をとまなう活動を行う授業についてはほとんどの生徒が積極的に活動できるが、体育理論や保健などの教室で学習する授業については消極的な生徒が多い。事前アンケートでは、「体育理論や保健などの教室で学習する授業に積極的に取り組みますか。」の項目では 50%(15 名)の生徒が否定的な意見を持っている。体育理論や保健の授業では、自分の意見を持っているが発言や発表をすることに対して消極的である。

校種・教科等	中学校・保体	受審番号		氏 名	
--------	--------	------	--	-----	--

(6) 指導計画(全3時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (1時間)	気温の変化に対する適応能力とその限界 〈環境の変化と適応能力【学研】〉 ・気温の変化に対する体温調節の機能を例として取り上げ、身体には、環境の変化に対応した調節機能があり、一定の範囲内で環境の変化に適応する能力があること。 ・体温を一定に保つ身体の適応能力には限界があること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第2次 (1時間)	温熱条件や明るさの至適範囲 〈活動に適した環境【学研】〉 ・温度、湿度、気流の温熱条件には、人間が活動しやすい至適範囲があること、温熱条件の至適範囲は、体温を容易に一定に保つことができる範囲であること。 ・明るさについては、視作業を行う際には、物がよく見え、目が疲労しにくい至適範囲があること、その範囲は、学習や作業などの種類により異なること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第3次 (1時間) 本時 P174・175	空気の衛生的管理 〈室内の空気の条件【学研】〉 ・室内の二酸化炭素は、人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること、そのため、室内の空気が汚れてきているという指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できること。 ・空気中の一酸化炭素は、主に物質の不完全燃焼によって発生し、吸入すると一酸化炭素中毒を容易に起こし、人体に有害であること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第4次 (1時間)	飲料水の衛生的管理 (水の役割と飲料水の確保【学研】) ・水は、人間の生命の維持や健康な生活と密接な関わりがあり重要な役割を果たしていること、飲料水の水質については一定の基準が設けられており、水道施設を設けて衛生的な水を確保していること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第5次 (1時間)	生活に伴う廃棄物の衛生的管理 (生活排水の処理(環境の汚染と保全)【学研】) ・人間の生活に伴って生じたし尿などの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないこと。 ※公害と健康との関係及び近年の環境問題とその対策についても取り扱う。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第6次 (1時間)	生活に伴う廃棄物の衛生的管理 (ごみの処理(環境の汚染と保全)【学研】) ・人間の生活に伴って生じたごみなどの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないこと。 ※公害と健康との関係及び近年の環境問題とその対策についても取り扱う。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 ※主体的に学習に取り組む態度は単元を通して評価する。

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

中学校『保健体育科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和6年〇月〇日 第〇校時(50 分)
 (2) 場 所 3年 1組 教室
 (3) 学年・学級 第3学年 1組(男子 15 名・女子 15 名・計 30 名)

使用教科書: 中学校保健体育(学研)P176・177

- (4) 単 元 名 健康と環境「飲料水の衛生的管理」

- (5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

小学校では、健康を保持増進するためには、明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることを学習している。

【単元のねらい】

健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康と環境について理解を深めること。

(ア) 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

(イ) 飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。

(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。

イ 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

【生徒の状況】

体育分野の運動をとまなう活動を行う授業についてはほとんどの生徒が積極的に活動できるが、体育理論や保健などの教室で学習する授業については消極的な生徒が多い。事前アンケートでは、「体育理論や保健などの教室で学習する授業に積極的に取り組みますか。」の項目では 50%(15 名)の生徒が否定的な意見を持っている。体育理論や保健の授業では、自分の意見を持っているが発言や発表をすることに対して消極的である。

校種・教科等	中学校・保体	受審番号		氏名	
--------	--------	------	--	----	--

(6) 指導計画(全3時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (1時間)	気温の変化に対する適応能力とその限界 〈環境の変化と適応能力【学研】〉 ・気温の変化に対する体温調節の機能を例として取り上げ、身体には、環境の変化に対応した調節機能があり、一定の範囲内で環境の変化に適応する能力があること。 ・体温を一定に保つ身体の適応能力には限界があること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第2次 (1時間)	温熱条件や明るさの至適範囲 〈活動に適した環境【学研】〉 ・温度、湿度、気流の温熱条件には、人間が活動しやすい至適範囲があること、温熱条件の至適範囲は、体温を容易に一定に保つことができる範囲であること。 ・明るさについては、視作業を行う際には、物がよく見え、目が疲労しにくい至適範囲があること、その範囲は、学習や作業などの種類により異なること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第3次 (1時間)	空気の衛生的管理 〈室内の空気の条件【学研】〉 ・室内の二酸化炭素は、人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること、そのため、室内の空気が汚れてきているという指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できること。 ・空気中の一酸化炭素は、主に物質の不完全燃焼によって発生し、吸入すると一酸化炭素中毒を容易に起こし、人体に有害であること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第4次 (1時間) 本時 P176・177	飲料水の衛生的管理 (水の役割と飲料水の確保【学研】) ・水は、人間の生命の維持や健康な生活と密接な関わりがあり重要な役割を果たしていること、飲料水の水質については一定の基準が設けられており、水道施設を設けて衛生的な水を確保していること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第5次 (1時間)	生活に伴う廃棄物の衛生的管理 (生活排水の処理(環境の汚染と保全)【学研】) ・人間の生活に伴って生じたし尿などの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないこと。 ※公害と健康との関係及び近年の環境問題とその対策についても取り扱う。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第6次 (1時間)	生活に伴う廃棄物の衛生的管理 (ごみの処理(環境の汚染と保全)【学研】) ・人間の生活に伴って生じたごみなどの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないこと。 ※公害と健康との関係及び近年の環境問題とその対策についても取り扱う。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 ※主体的に学習に取り組む態度は単元を通して評価する。

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

中学校『保健体育科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和6年〇月〇日 第〇校時(50 分)
 (2) 場 所 3年 1組 教室
 (3) 学年・学級 第3学年 1組(男子 15 名・女子 15 名・計 30 名)

使用教科書: 中学校保健体育(学研)P178・179・182・183

- (4) 単 元 名 健康と環境「生活に伴う廃棄物の衛生的管理」

- (5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

小学校では、健康を保持増進するためには、明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることを学習している。

【単元のねらい】

健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康と環境について理解を深めること。

(ア) 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

(イ) 飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。

(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。

イ 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

【生徒の状況】

体育分野の運動をとまなう活動を行う授業についてはほとんどの生徒が積極的に活動できるが、体育理論や保健などの教室で学習する授業については消極的な生徒が多い。事前アンケートでは、「体育理論や保健などの教室で学習する授業に積極的に取り組みますか。」の項目では 50%(15 名)の生徒が否定的な意見を持っている。体育理論や保健の授業では、自分の意見を持っているが発言や発表をすることに対して消極的である。

校種・教科等	中学校・保体	受審番号		氏名	
--------	--------	------	--	----	--

(6) 指導計画(全3時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (1時間)	気温の変化に対する適応能力とその限界 〈環境の変化と適応能力【学研】〉 ・気温の変化に対する体温調節の機能を例として取り上げ、身体には、環境の変化に対応した調節機能があり、一定の範囲内で環境の変化に適応する能力があること。 ・体温を一定に保つ身体の適応能力には限界があること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第2次 (1時間)	温熱条件や明るさの至適範囲 〈活動に適した環境【学研】〉 ・温度、湿度、気流の温熱条件には、人間が活動しやすい至適範囲があること、温熱条件の至適範囲は、体温を容易に一定に保つことができる範囲であること。 ・明るさについては、視作業を行う際には、物がよく見え、目が疲労しにくい至適範囲があること、その範囲は、学習や作業などの種類により異なること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第3次 (1時間)	空気の衛生的管理 〈室内の空気の条件【学研】〉 ・室内の二酸化炭素は、人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること、そのため、室内の空気が汚れてきているという指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できること。 ・空気中の一酸化炭素は、主に物質の不完全燃焼によって発生し、吸入すると一酸化炭素中毒を容易に起こし、人体に有害であること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第4次 (1時間)	飲料水の衛生的管理 (水の役割と飲料水の確保【学研】) ・水は、人間の生命の維持や健康な生活と密接な関わりがあり重要な役割を果たしていること、飲料水の水質については一定の基準が設けられており、水道施設を設けて衛生的な水を確保していること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第5次 (1時間) 本時 P178・179・ 182・183	生活に伴う廃棄物の衛生的管理 (生活排水の処理(環境の汚染と保全)【学研】) ・人間の生活に伴って生じたし尿などの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないこと。 ※公害と健康との関係及び近年の環境問題とその対策についても取り扱う。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第6次 (1時間)	生活に伴う廃棄物の衛生的管理 (ごみの処理(環境の汚染と保全)【学研】) ・人間の生活に伴って生じたごみなどの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないこと。 ※公害と健康との関係及び近年の環境問題とその対策についても取り扱う。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 ※主体的に学習に取り組む態度は単元を通して評価する。

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

中学校『保健体育科』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和6年〇月〇日 第〇校時(50 分)

(2) 場 所 3年 1組 教室

(3) 学年・学級 第3学年 1組(男子 15 名・女子 15 名・計 30 名)

使用教科書: 中学校保健体育(学研)P180・181・182・183

(4) 単 元 名 健康と環境「生活に伴う廃棄物の衛生的管理」

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

小学校では、健康を保持増進するためには、明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることを学習している。

【単元のねらい】

健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康と環境について理解を深めること。

(ア) 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

(イ) 飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。

(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。

イ 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

【生徒の状況】

体育分野の運動をとまなう活動を行う授業についてはほとんどの生徒が積極的に活動できるが、体育理論や保健などの教室で学習する授業については消極的な生徒が多い。事前アンケートでは、「体育理論や保健などの教室で学習する授業に積極的に取り組みますか。」の項目では 50%(15 名)の生徒が否定的な意見を持っている。体育理論や保健の授業では、自分の意見を持っているが発言や発表をすることに対して消極的である。

校種・教科等	中学校・保体	受審番号		氏名	
--------	--------	------	--	----	--

(6) 指導計画(全3時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (1時間)	気温の変化に対する適応能力とその限界 〈環境の変化と適応能力【学研】〉 ・気温の変化に対する体温調節の機能を例として取り上げ、身体には、環境の変化に対応した調節機能があり、一定の範囲内で環境の変化に適応する能力があること。 ・体温を一定に保つ身体の適応能力には限界があること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第2次 (1時間)	温熱条件や明るさの至適範囲 〈活動に適した環境【学研】〉 ・温度、湿度、気流の温熱条件には、人間が活動しやすい至適範囲があること、温熱条件の至適範囲は、体温を容易に一定に保つことができる範囲であること。 ・明るさについては、視作業を行う際には、物がよく見え、目が疲労しにくい至適範囲があること、その範囲は、学習や作業などの種類により異なること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第3次 (1時間)	空気の衛生的管理 〈室内の空気の条件【学研】〉 ・室内の二酸化炭素は、人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること、そのため、室内の空気が汚れてきているという指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できること。 ・空気中の一酸化炭素は、主に物質の不完全燃焼によって発生し、吸入すると一酸化炭素中毒を容易に起こし、人体に有害であること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第4次 (1時間)	飲料水の衛生的管理 (水の役割と飲料水の確保【学研】) ・水は、人間の生命の維持や健康な生活と密接な関わりがあり重要な役割を果たしていること、飲料水の水質については一定の基準が設けられており、水道施設を設けて衛生的な水を確保していること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第5次 (1時間)	生活に伴う廃棄物の衛生的管理 (生活排水の処理(環境の汚染と保全)【学研】) ・人間の生活に伴って生じたし尿などの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないこと。 ※公害と健康との関係及び近年の環境問題とその対策についても取り扱う。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現
第6次 (1時間) 本時 P180・181・ 182・183	生活に伴う廃棄物の衛生的管理 (ごみの処理(環境の汚染と保全)【学研】) ・人間の生活に伴って生じたごみなどの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないこと。 ※公害と健康との関係及び近年の環境問題とその対策についても取り扱う。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 ※主体的に学習に取り組む態度は単元を通して評価する。

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。